

平成 27 年度 事業報告書

1. 法人の概要

設置する学校・学部・学科

国立音楽大学

音楽学部

演奏・創作学科、音楽文化デザイン学科

演奏学科、音楽文化教育学科、音楽教育学科

別科

大学院

音楽研究科

国立音楽大学附属高等学校

音楽科

普通科

国立音楽大学附属中学校

国立音楽大学附属小学校

国立音楽大学附属幼稚園

役員概要

理事会

理事長 長尾達則

監事 藤瀬 學

村山利夫

理事 内野好郎
久保田慶一
武田忠義
花岡千春

藤掛聖二
古川 聡
吉成 順

大学

学長 武田忠善

副学長 神原雅之 副学長 久保田慶一

中学校、高等学校 校長 荒木泰俊

小学校 校長 若林茂美

幼稚園 園長 山崎信政

学校法人の沿革

学 校 法 人 の 沿 革 (概 要)	
大正 15 年 4 月	東京高等音楽学院創立(仮校舎を東京市四谷区番衆町)。 予科、本科(声楽・器楽・作曲)、高等師範科を置く。初代学院長渡辺敢。
11 月	国立大学町(昭和 27 年・1952、文教地区に指定される)に校舎が竣工し移転。
昭和 3 年 12 月	新交響楽団(現NHK交響楽団)との共演でベートーヴェン“第九交響曲”の合唱として初出演、現在に至る。
昭和 16 年 8 月	私立の音楽学校として初めて文部省より中等学校音楽科教員無試験検定を認可。
昭和 22 年 7 月	国立音楽学校と改称。
昭和 23 年 5 月	財団法人国立音楽学校となる。
昭和 24 年 1 月	国立音楽高等学校・国立中学校設置認可。
昭和 25 年 2 月	国立音楽大学に昇格(声楽・器楽・作曲・楽理・教育音楽)。学長 有馬大五郎。
7 月	国立幼稚園設置認可。
9 月	楽器研究所附設設置認可。
昭和 26 年 2 月	学校法人国立音楽大学に組織変更。
4 月	別科(作曲・声楽・器楽・調律専修)設置認可。 附設保育科設置(幼稚園教諭養成機関として認可・1年制)。
昭和 28 年 5 月	国立音楽大学附属小学校設置認可。
昭和 30 年 4 月	大学に第2部を設置認可。
昭和 31 年 4 月	専攻科(作曲・器楽・声楽・楽理・教育音楽専攻)設置。保育科を改組し、 幼稚園教諭養成所(幼稚園教諭養成機関として文部省より認可・2年制)とする。
昭和 35 年 2 月	幼稚園教諭養成所が各種学校として認可。
昭和 37 年 4 月	別科は調律専修を除き学生募集停止。
昭和 38 年 4 月	幼稚園教諭養成所を発展的解消し、教育音楽学科に「幼児教育専攻」として増設。 国立音楽高等学校に普通科を増設。
昭和 43 年 3 月	大学院音楽研究科(修士課程)を設置。
昭和 44 年 3 月	専攻科廃止。
昭和 50 年 3 月	附属の各校(園)名を変更し統一する。 国立音楽大学附属音楽高等学校 国立音楽大学附属中学校 国立音楽大学附属小学校 国立音楽大学附属幼稚園
昭和 51 年 4 月	音楽研究所、楽器技術センターを設置(楽器研究所は発展的解消)。
昭和 53 年 3 月	大学位置変更(立川市柏町)。 附属音楽高等学校・中学校位置変更(国立市西)。
昭和 54 年 6 月	大学第2部廃止。
昭和 62 年 12 月	大学に音楽デザイン学科・応用演奏学科の2学科設置認可。
平成 16 年 4 月	大学学科再編(演奏学科・音楽文化デザイン学科・音楽教育学科)、収容定員減及びカリキュラム改編。
平成 16 年 4 月	附属高等学校普通科の男女共学化、及び校名変更(国立音楽大学附属高等学校)。
平成 18 年 11 月	大学院音楽研究科音楽研究専攻(博士後期課程)認可。
平成 23 年 4 月	大学に演奏学科ジャズ専修を新設。
平成 23 年 9 月	新1号館落成式挙句。
平成 26 年 4 月	大学学科再編(演奏・創作学科、音楽文化デザイン学科)、収容定員減及びカリキュラム改編

2. 平成 27 年度事業の説明にあたって

平成 27 年度決算は 5 月 25 日の理事会、及び評議員会において承認されました。また監事からは、本法人の業務及び財産の状況は適切であるとの「監査報告書」が理事会及び、評議員会へ提出されました。

3. 平成 27 年度 事業の概要

平成 27 年度の事業内容について教育研究事業、施設の整備、財政基盤の充実と経営管理体制の強化に区分して説明いたします

(1) 教育研究事業

大 学

安全で、充実した、持続可能な教育環境の整備を目的として推進されてきた、キャンパス整備計画に関しては、平成 27 年度より平成 28 年度末の完成を目指し、図書館、楽器学資料館、音楽研究所が設置されている 4 号館の耐震改修を開始しております。図書館については、ラーニングコモンズを備えるなど大学図書館としての教育的機能の強化を行い、楽器学資料館もこれまで以上の展示スペースを確保できるようにします。図書館については、平成 28 年 1 月に改修を終えたフロアを一部開放・稼働しております。

教育改革の第 2 ステージとして行われた、カリキュラム改編の 2 年目として、教養科目、音楽文化教育学科の学科共通科目等、多くの新設科目の開設や、新たなコース制に向けた取り組みが行われ、大きな教育的成果を上げております。特別給費奨学生入試は実施 3 年目として定着し、導入初年度の入学生については基礎課程を修了し、専門課程へと進む時期となっております。当該学生については自己の課題に意欲的に取り組み、いずれも優秀な成績で専門課程への進級が予定されており、それに続く 2 年度生につきましても、それぞれ有意義な学修を行っております。

平成 27 年度の入学生が定員をわずかながら下回った事実に鑑み、さらなる学生獲得を考える方策の一環として、平成 29 年度入試からの編入学制度の復活を決定いたしました。それとともに、新たな入試制度の導入についても引き続き検討していく予定です。

これらの教育を多くの学生に実施するため、一層の受験生を獲得すべく、平成 27 年度より広報プロジェクトチームが発足いたしました。こちらは平成 28 年度からの正式部署としての発足を目指し、新規広報媒体の作成を行い、大学公式ホームページのリニューアルについても着手いたしました。

例年開催の進学ガイダンスは、今までの開催状況を検討し、平成 27 年度からはさらに陣容と内容の充実を図ります。事務職員のさらなる積極的な活用もその一つの方策です。

ライブ・キャンパス・システムの利用が学生に浸透し、学生への連絡等がスムーズにできるようになり、学生サービスが更に向上しました。

演奏教育の成果として実施する定期演奏会に、平成 27 年度も準メルクル先生（オーケストラ）、F.ブーランジェ先生（ブラスオルケスター）を客演に迎え、例年をさらに上回る成果を挙げました。また、尾高忠明先生を招聘教授としてお迎えし、オーケストラの定期演奏会（12 月）で指揮をお願いいたしました。尾高先生の指揮で、学生が新たなグレードアップを経験できたとともに、かねてから本学に親しみをお持ち頂いていた尾高先生もこの客演を大変お喜び頂き、終演時には異例の感動的なスピーチをなさって頂きました。

キャリアカウンセラーの体制も定着し、様々なキャリアサポートの展開により、充実したキャリア支援を行いました。また卒業後の進路アンケートはライブ・キャンパス・システム及び関係の教職員の協力のおかげをもちまして、昨年度に引き続き回収率 100%を達成しました。

創立 90 周年記念事業として、今年度は、カールスルーエ音楽大学、バーゼル音楽院との共同企画である、本学教員と学生による笙と室内楽アンサンブル作品の両大学での上演と笙のワークショップ、またマヒドン音楽大学との共同プロジェクトであるシンポジウムとレクチャー・コンサート「アジアの宮廷音楽と竹の文化」、アジア・パシフィック・コミュニティ音楽ネットワーク国際セミナー等が開催されました。

音楽研究所は、20 世紀前半のアメリカ音楽部門がスタートし、3 月 11 日には講堂大ホールにおいて、「レクチャー&コンサート《ラプソディ・ブルー》の真実」を開催し、内外より高い評価を頂きました。

大学院

大学院オペラは指揮者に山下一史氏をお迎えし、例年通りモーツァルト作品である「コジ・ファン・トゥッテ」を上演し、例年にも増して高い評価を頂きました。

Semester 制を導入し、大学院交換留学生制度も充実しました。

附属中学校・高等学校

・新入生

平成 27 年度は中学校 76 名（音楽コース 62 名、普通コース 14 名）、高等学校 127 名（音楽科 63 名、普通科 64 名）の計 203 名の新入生を迎えてスタートしました。

・生徒確保に向けて

昨年に引き続き受験生のための「KUNION 講座」を中高合わせて 17 回開催しました。高等学校音楽科では音楽への志の高い生徒で音楽経験の少ない生徒でも受け入れ出来るようカリキュラムの見直しを行いました。カリキュラムを細分化してそれぞれの能力に適した教育が可能となるうえ、優秀な生徒のモチベーションアップにつながる

よう改編しました。普通科はより受験に特化したカリキュラムへ再編し、一部の教科では音楽科の授業が履修可能となるようにしました。来年度の生徒募集に向けてのアピールポイントとして積極的に広報していきます。

・実習体験開始

キャリア教育の一環として国立音楽大学幼児音楽教育志望の在校生に対し、附属幼稚園での体験実習を9月に行いました。参加生徒は音楽科2、3年生21名、普通科2、3年生6名の計27名が参加し、幼児教育への関心の高さが示されました。一貫校の強みを発揮し幼児教育の実体験をすることができ実り多い実習となりました。

・公開レッスン

9月15日、チューリッヒ国立歌劇場のオペラ歌手として活躍されたアンナ・マリア・パーマー先生をお招きして声楽の公開レッスンを、また11月17日、国際的に活躍されているオランダ出身の名ピアニストのウィレム・ブロンズ先生をお招きしてのピアノの公開レッスンをそれぞれ開催し好評を博しました。

・交流演奏会

27年度は例年開催している演奏会に加え、多くの海外の学校との交流演奏会を開催しました。5月24日には本校音楽科生徒が台湾の大成國中学オーケストラとベートーヴェンのピアノ協奏曲を共演し、6月1日には大成國中学・鳳西国中学の合同オーケストラと再度大学大ホールにて本校オーケストラと合同演奏する等、充実した交流となりました。11月18日にはリトアニア・カウナスのヴァルペリス青少年合唱団が来校し、大学講堂小ホールにて中学合唱部との交流演奏会を、また中学合唱部は12月17日には紀尾井ホールにて開催された「日韓国交正常化50周年記念公演」にて韓国同世代の子供たちとの合同合唱を行い、今年度はさまざまな貴重な交流体験をすることができました。

・地域交流

音楽科生徒会主催による出張コンサートは近隣の方々を招いた地域謝恩コンサートをはじめ、国立市主催によるコンサートへ参加しました。その他4月には「商協花祭り」へ、8月にはアートビエンナーレで本校作曲家教諭山本康雄先生によるテーマ曲「祝典」を演奏、12月には「イルミネーション点灯記念コンサート」「大学通りイルミネーション点灯式」「立川病院クリスマスコンサート」等へ参加し各地で瑞々しい演奏を披露いたしました。

・クラブ活動

高校合唱部がNHK全国学校音楽コンクール関東甲信越ブロックにおいて銅賞を、高校普通科吹奏楽部は東京都吹奏楽コンクールにおいて銀賞、中学合唱部は春のコーラスコンテストにおいて優秀賞をそれぞれ受賞しました。

・海外留学にむけて

海外留学の実施に向けて、ドイツのカニジウス高校、オーストリアのリンツ音楽高校、オーストラリアのエルウッド高校との留学協定締結に向けて関係部署と調整手

続きを進めてきており、生徒の期待に応えるべく来年度には実施できるように取り組んでいます。

附属小学校

・教育内容の充実

6月には台湾大成小との音楽交流を実施し、異文化交流の良い機会となりました。また、学校行事の『音楽会』では、児童が表現する楽しさや喜びを感じることができるよう、児童一人ひとりの発表の機会を増やし意欲的に取り組もうとする気持ちを育てるようすすめてきました。その結果、3月の卒業演奏発表会では多くの参加者が演奏し、保護者からも好評を得ることができました。

各教科部では、「教材理解力・児童理解力・指導技術力」を共通のテーマとして、教師相互に授業を参観し合う方法を取り入れ、授業力アップに向けての研究に継続して取り組んでいます。

英語では専科専任教諭を中心に、授業の改善やカリキュラムの整理を進め、東京学芸大学教授の粕谷恭子氏を講師として、英語授業研究を行いました。また造形では、造形活動のプロセスを大切にし、のびのびと創造活動できる児童を育てることを指針として取り組み、音楽では、低、中、高学年における音楽教育の指針に基づく指導を行い、授業内容を定着させました。低学年のうちから、音楽、造形等、特色ある授業で、「豊かな感性を育むこと」をもとに、教育活動の充実を図ってまいりました。

・生活指導の徹底

規律ある生活に繋がる生活指導では、「音小新しいなかま手帳」をもとに、4月のわかば会総会で保護者への説明を行い、学校と家庭との共通理解のもと、指導の徹底を図りました。また、学期毎に生活指導だより「音小っこ」を発行し、「挨拶を進んでしよう」「落ち着いた生活をしよう」「校舎内は歩こう」などを掲げて生活指導を行いました。また通学指導では、児童の安全と公共交通機関マナー等について教員が積極的に関わり、通学路の歩き方などを指導し登下校時のマナー向上を図りました。

・校務分掌および運営組織の改善

前年度の反省を生かし、校務分掌の効率化を図りました。応募者増を目指して、広報科が活発な活動を開始できるよう、体制を見直し、附属各校との連携強化により次年度から実施する中期計画の中で準備を進めました。附属各校のさらなる相互理解を図るために、附属全体での情報交換会を開催しました。

・応募者増の広報活動

広報活動を再点検し、学校説明会のあり方や学校要覧、ホームページ、学校紹介用DVD等の充実を図るとともに、教員による近郊幼児教室へのPR活動を実施しました。その他、・幼児教室説明会（4月）附属幼稚園保護者説明会（5月）土曜見学会（5月）プレスクール（7月）日曜見学会【講演会】（8月）学校説明

会（6．9月）中央線沿線合同相談会（2月）ミニコンサート、学校見学会（2月）を開催しました。

附属幼稚園

- ・総合リズム教育を基本とした保育内容の充実

初代園長の小林宗作先生が唱えた総合リズム教育の理念を基本に幼稚園生活の中で園児が様々な体験を積み重ね、豊かな経験となるよう職員全員研鑽を重ね年間保育日数も190日を超えた保育内容の充実に取り組んできました。

- ・施設整備と園庭解放

園庭に設置している大型アスレチックを安全に配慮した改修を実施しました。また近隣に安全に遊べる公園が少ないため園庭を保育終了後に開放しています。

- ・延長保育の実施

保護者の保育ニーズに応えるため、本園1月より延長保育を開始しました。通常の保育の流れで本園教員が対応しているため園児にとっても楽しく過ごせ、保護者にとっても安心して預けられる場となりました。

- ・本学幼児教育専攻の学生や附属高校生の実習

従来実施してきました本学幼児教育専攻の学生受け入れに加えて、附属校高校生に対しても園児との交流を通じ保育を経験できる場として受け入れを開始しました。一貫校として各校と連携した取り組みさらに進めていきます。

- ・課外レッスンの開講へ向けて

放課後にピアノとバイオリンのレッスンを開講すべく準備を進めています。レッスン講師には付属小中高のレッスン講師を招き来年度から開講します。すでに在園生の過半数から受講の希望が出ています。今後の本園の特徴として広くアピールしていきます。

(2) 施設の整備

- ・大学4号館の耐震補強及びリニューアル工事に着手し、平成28年1月には第1期工事が終了しました。第1期工事の終了に伴い、3階と4階の図書館エリアがリニューアルオープンしました。全館のリニューアルオープンは、平成29年4月の予定です。
- ・中高2号館空調設備の更新工事（第2期）を行いました。第1期工事は平成26年度に行いましたので、空調設備の更新工事は全て終了しました。
- ・建設から33年経過した講堂の防災設備の更新工事を行いました。

(3) 財政基盤の充実と経営管理体制の強化

- ・耐震改修工事と財務状況

新1号館の建設をはじめとするキャンパス整備計画は、新校舎建設後も耐震改修工事を行ってきました。平成27年度には大学4号館の耐震改修工事に着手し、4号館の工事が終了するまでキャンパス整備のための支出が続きます。こうした中で、基

本組入前収支差額は昨年に引き続き支出超過となりました。支出超過の要因は、学生数の減少に伴う納付金及び経常費補助金の収入減ですが、業務委託費の見直しなど経費削減策に努めた結果、経費支出は前年度より減額した他、4号館耐震工事の補助金受入れ等により、収支差額は前年度より改善しました。今後も補助金の効果的な受入れと経費削減に努める所存です。また、少子化及びクラシック離れによる学生数の減少に対しては、広報業務をはじめ学生確保の努力を強化すると共に、制度や組織の見直しなど一層の効率的な運営を行う必要があります。

尚、キャンパス整備に関わる資金は全て自己資金で賄っています。平成27年度のキャッシュフローは4号館改修工事費の支払により前年比マイナスとなりましたが、平成26年度までの過去3年間のキャッシュフローはプラスであることから、依然として高い資金量を確保しています。

- ・ 寄付金事業の推進

平成27年度は4号館リニューアル事業募金を立上げ、多くの方々からご支援をいただきました。平成28年度も継続します。

- ・ 内部監査の実施

内部管理体制強化の観点から、内部監査を行いました。対象部門は附属中高、附属小学校、附属幼稚園でした。また、前年度に監査対象となった部署へのフォローアップ監査も実施しました。

4. 平成27年度決算及び財務の概要

平成27年度から学校法人会計基準が改訂され、新たな計算書様式が適用されました。主な改正点は消費収支計算書が廃止され、経常的な収支と臨時的な収支に大別した事業活動収支計算書が設定されました。この計算書は、活動区分別の収支状況を確認する重要な役割を果たすものですので、事業活動収支計算書の概要から説明します。

尚、金額は十万円単位を四捨五入して百万円単位で表示します。

(1) 事業活動収支計算書

①教育活動収支

(収入の部)

「学生生徒等納付金」は42億67百万円で、予算比86百万円減少しました。前年実績比では2億7百万円減少し、減少内訳は大学（大学院等含む）1億90百万円、中高6百万円、小学校14百万円です。幼稚園は前年実績比で3百万円増額しました。

「経常費等補助金」は7億47百万円で、予算比30百万円減少しました。内訳は国庫補助金3億4百万円、地方（主に東京都）補助金4億44百万円です。

「付随事業収入」は26百万円で、寮や受験準備講習会などの補助活動収入と本学主催

の演奏会収入に区分されています。

「雑収入」1億8百万円で、主に私立大学退職金財団などからの退職交付金収入です。以上、教育活動収入の合計は52億7百万円で、学生生徒等納付金の占める割合は82.0%です。

(支出の部)

「人件費」は34億58百万円で、予算比40百万円の減少です。内、教職員人件費は33億24百万円で、前年実績比では62百万円減少しました。

「教育研究経費」17億60百万円で、当初予算に比べて減価償却額が26百万円増加したことから予備費を使用しましたが、前年実績比では90百万円減少しました。主な減少要因は、報酬委託手数料の業務委託費、光熱水費等の減少によるものです。

「管理経費」は3億21百万円で、当初予算比べて修繕費等が増加したことから予備費を13百万円使用しました。前年実績比では13百万円減少しました。

以上、教育活動支出の合計は55億44百万円となり、教育活動収支差額は3億38百万円の支出超過になりました。

② 教育活動外収支

主な収入は受取利息の76百万円です。

以上、教育活動収支と教育活動外収支を合算した経常収支差額は2億61百万円の支出超過となりました。

③ 特別収支

主な収入は、施設設備寄付金として4号館リニューアル募金25百万円、施設設備補助金として4号館耐震補助金の1億60百万円など、合計で2億4百万円となります。

また、主な支出は図書などの除却に伴う処分差額46百万円です。

以上、特別収支差額は1億57百万円の収入超過となりました。

<基本金組入前収支差額>

経常収支差額と特別収支差額を合算した基本金組入前収支差額は1億4百万円の支出超過となりました。前年度の決算額と比較すると、経常収支は支出超過額が増加ですが、特別収支の収入超過により基本金組入前収支差額の支出超過額は、前年実績より38百万円改善しました。

<基本金組入額>

4号館耐震改修工事の約7億円の組入れに対して、第2号基本金資産から6億38百万円の振替を行いました。また、中高2号館空調改修や機器備品購入などの組入れがありましたが、廃棄備品や図書などの除却が約3億円であったことから、組入額の合計は1億44百万円になりました。

<当年度収支差額及び翌年度繰越収支差額>

以上の結果から当年度収支差額は2億48百万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は37億44百万円の支出超過になりました。

(2) 資金収支計算書

資金収支計算書は法人全体の資金の出入りを示したものです。事業活動収支計算書と重複する内容を除き、主な内訳は次の通りです。

(収入の部)

「資産売却収入」21億円は、国債及び社債の満期償還に伴う受入れ収入です。

「前受金収入」7億55百万円は、平成28年度計上となる納付金収入などの平成27年度内の受入れ額です。

「その他の収入」8億76百万円は、第2号基本金引当資産の取崩し6億38百万円や仮払金回収収入などです。

「資金収入調整勘定」は、当期に実際の資金収入がない期末未収入金などの調整項目です。

(支出の部)

「施設関係支出」8億94百万円の内訳として、建物支出は4号館改修工事（第1期分）と中高2号館空調改修工事、建設仮勘定は4号館改修工事（第2期分）です。

「資産運用支出」20億11百万円は、国債等の満期償還分をもとに、学校法人として許容可能な範囲で運用益の増加を目指して劣後債や仕組債を購入したものです。

「その他の支出」3億28百万円は、前年度未払金の支払額や仮払金などの支払額です。

「資金支出調整勘定」は、当期に実際の資金支出がない未払金などの調整項目です。

以上、当期の資金収入と資金支出をまとめると、次年度繰越資金は50億51百万円となりました。

(3) 貸借対照表

資金収支計算書、事業活動収支計算書をもとに平成27年度末の資産、負債及び純資産を示しています。資産合計は前年度に比べて4億2百万円減少しました。内訳は固定資産が6億13百万円減少し、流動資産が2億11百万円増加しました。また、負債は減少し、基本金及び翌年度支出超過額は、資産の除却もありましたが、増加しました。注記欄は基準に従って所定事項を明記している他、重要な会計方針の変更として、この度の学校法人会計基準の改正に伴う計算書類の様式変更について記載しています。

資料 1：事業活動収支の推移

(百万円)

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
①事業活動収入計	6,111	6,079	5,584	5,486
②事業活動支出計	5,689	5,760	5,726	5,590
③経常収支差額	259	△ 4	△ 188	△ 262
④基本金組入前当年度収支差額	422	319	△142	△ 104
⑤基本金組入額	△ 826	△ 3	△ 463	144
⑥当年度収支差額	△ 404	316	△605	△ 248
⑦前年度繰越額	△ 3,058	△ 3,462	△ 2,891	△ 3,496
⑧翌年度繰越額	△ 3,462	△ 2,891	△ 3,496	△ 3,744

資料 2：学生、生徒数の推移

(名)

	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		
	5/1 現在	前年比	5/1 現在	前年比	5/1 現在	前年比	5/1 現在	前年比	
大 学 院	78	△7	75	△3	78	+3	84	+6	
学 部	1,865	0	1,827	△38	1,765	△65	1,680	△85	
別 科	9	△2	7	△ 2	6	△1	5	△1	
高 校	音楽科	290	+4	276	△14	265	△11	229	△36
	普通科	126	△9	136	+10	149	+13	165	+16
	(計)	(416)	△5	(412)	△ 4	(414)	+2	(394)	△20
中 学 校	219	△18	203	△ 16	193	△10	204	+11	
小 学 校	425	△16	395	△ 30	360	△35	336	△24	
幼 稚 園	93	△13	88	△5	82	△6	86	+4	
合 計	3,105	△61	3,007	△ 98	2,898	△112	2,789	△109	